

横田の軍用犬ハンドラー、医療退職する相棒の里親に *Yokota MWD handler adopts medically-retired K9*

October 4, 2023

By Staff Sgt. Taylor Slater, Airman 1st Class Samantha White
374th Airlift Wing Public Affairs

ジャーマン・シェパードの軍用犬リコ(7歳)は、米空軍での7年間の勤務を経て、10月11日、横田基地で正式に引退する。

リコはテキサス州ラックランド空軍基地で2016年から軍用犬として働き始め、2017年に横田基地にやってきた。認定を受けた軍用パトロール犬として、リコはパトロールだけでなく、爆発物・麻薬探知の訓練も積んでいた。

第374憲兵中隊軍用犬ハンドラーのベイリー・ホジソン軍曹は、2022年2月からハンドラーとして働き始め、リコと出会ったのはその年の12月のことだった。

一緒に仕事し始めてから、しばらくして訓練中にホジソン軍曹はリコの異変に気づいた。

「ある日の訓練中、リコは嘔むことを止めてしまい、鳴き声をあげた」とホジソン軍曹と振り返り、「それからリコに検査を受けさせることを考えた」と言う。

横田基地の動物病院での検査の結果、2023年6月、リコは任務を続けることができないと診断された。

「普通なら手術ができただろう。しかし、検査を受けた時にはすでに関節炎が広がりすぎていた」とホジソン軍曹は話した。

その後、引退のための長い手続きを経て、ホジソン軍曹はリコの里親となり、家に迎えることができた。

「リコはすぐに普通の飼い犬になった」とホジソン軍曹は言い、こう続けた。「リコはソファーに飛び乗ってきて隣に座る。また、ものを取ってくる遊びも好きだし、ベッドの上で寝るのも好きだ。一方でじっと座ってこっちを見つめている時もある。仕事がしたいのだろう」

ホジソン軍曹のように、一緒に働いた軍用犬を次の基地に連れて行くことのできるハンドラーは数少ない。

「心の底から恵まれていると思う。この機会に恵まれたこと、また引退の手続きを手伝ってくれた人々に恵まれたことをとても幸運に思っている」とホジソン軍曹は感謝の気持ちを語った。

